

私の選択

秋田県横手市立横手北中学校

三年 加賀谷 麻衣

私は横手北中学生徒会長で、柔道部の主将を務めています。週に二度、ダンスの習い事と、市の子ども歌舞伎にも参加しています。その他にも、英語暗唱弁論大会やビブリオバトルなど、様々なことに挑戦してきました。

なぜ、こんなにも挑戦していけるのでしょうか。そう考えたとき、私の中で浮かび上がってくるものがありました。

保育園のころ、私は引つ込み思案でおとなしい、ごくごく普通の子どもでした。親に勧められて通っていたスイミングスクールでは、夏に体験講習が行われていました。当時小学一年生だった私は、その中の一つに目がひきよせられました。「ヒップホップ」。別のダンスの練習もありましたが不思議とヒップホップしか目に入っていませんでした。母に何かやるか、と問われたとき、私はすぐに、「ヒップホップがやりたい。」

と声を上げていました。そんなにやりたいの、珍しいね、と言いながら、母はすぐに申し込んでくれました。

その講習の内容自体は、あまり覚えていません。ただ、ダンスの先生が格好良く、講習が楽しかったことだけは覚えています。

講習が終わった後、私はすぐにヒップホップクラスに参加しました。やはりレッスンは本格的な動きになり、難しい動きもありました。自分の体が思い通りに動かない悔しさに涙を流すこともありましたが、そんな悔しさから私は変わりました。分からないところは聞き、一度できた動きは何度も練習して覚えしました。ダンスのレッスンの中で、先生が度々口にしていた言葉があります。

「ダンスをするときだけは、もつと前に出ていいんだよ。」

ダンスをするには積極性が必要です。バトルでは、いかにうまく踊るか、というほかに、いかに目立つか、ということも重要になってきます。そのためには前のめりで、貪欲な姿勢で踊らなくてはなりません。私自身がそうならざるを得なかったのではなく、そうなりたいたいと思って起きた、初めての変化でした。

ダンスの中での性格が変わると、日常生活も変わりました。授業中の発表や反応、イベントや行事への参加：自分がやりたいと思ったものに対しては、すぐに行くようになりました。

そうやって動けるようになると、「これをやらないか。」と先生方から声をかけてもらう機会が増えました。その中で出会ったのが子ども歌舞伎です。

これは、私の住む横手市が「横手を学ぶ郷土学」の事業の一環として行っているものです。後三年合戦の歴史を伝統芸能の手法で表現した「創作子ども歌舞伎」。地域や学校の垣根を越えて集った子どもたちで「御存知後三年蛙合戦（ごぞんじごさんねんかえるがっせん）」という通し狂言を上演します。私はこの子ども歌舞伎に小学五年生から参加しています。

歌舞伎には、独特の動き、台詞回しなどがあり、

習得するには時間がかかりました。しかし、それらを越えて舞台の上で演じたとき、ダンスとはまた違った感覚を覚えました。ダンスを踊っているときは、ただ楽しいというだけでした。一方、歌舞伎は終わった瞬間に「またやりたい。」「もつとやりたい。」と思えました。その思いはいったいどこからくるのでしょうか。

子ども歌舞伎は、本格的な衣装と化粧で扮装し、後三年合戦の登場人物になります。本番の舞台に向けて、夏休み前から集まり、練習を重ねます。その過程もとても充実していますが、やはり一番の大きな魅力は、歌舞伎という表現の場を通して、横手に住む誇りと喜びを表現できることだと思います。自分の住む郷土のことを学び、それを表現してたくさんの方に見ていただくことは、私にとって大きな喜びとなっています。今年で五年目となる舞台を、私なりの全力で演じていきたいと思っています。

私に力をくれた、ダンスと歌舞伎。どちらも私にとって大切なもので、できる限り続けていきたいと思っています。もし、これらに出会わなかったら、今の私はありません。「もし」と考えるときりがありませんが、これまでの選択を振り返っても、後悔はしていません。たとえ失敗だったとしても、そこから何かを学び、自分なりに咀嚼して考えられれば、自分にとって後悔のない選択に成り得ると思っています。そう思えるのも、今までの経験があったからです。

これからも、自分なりの選択と学びで、私の人生を私らしく、生きられたらいいな、と思います。そのための努力をすることが、「今の私」の選択です。